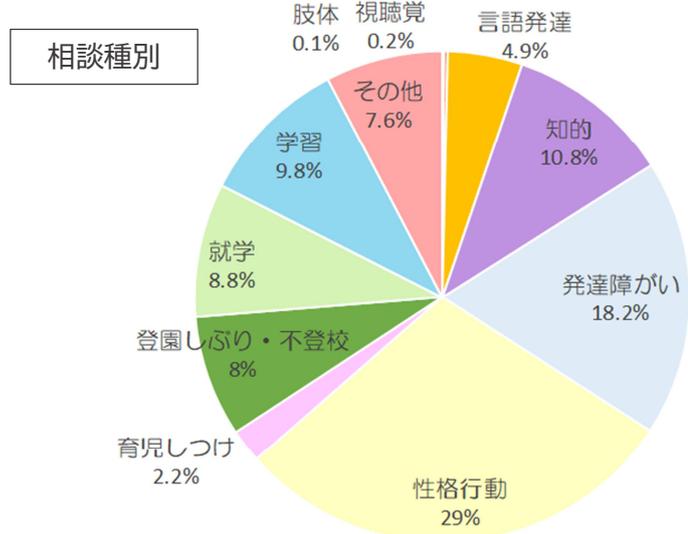
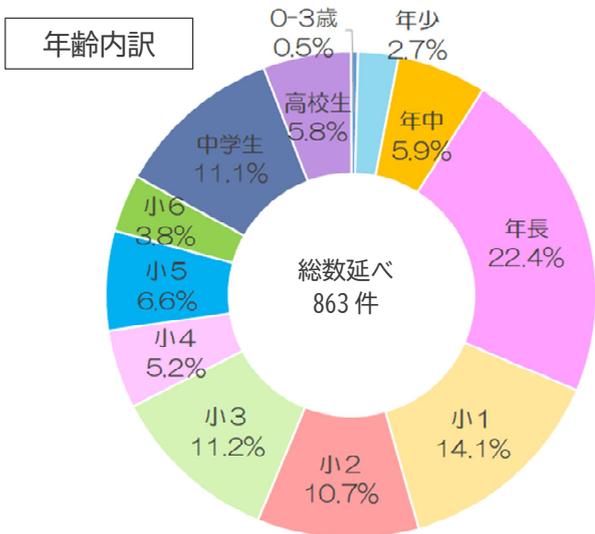




こども発達支援室では、こどもの理解を深め、発達や育ちを支える環境づくりに努めています。今回のたよりでは、昨年度の相談状況、子育てワンポイントアドバイスなどについてご紹介します。

令和5年度の相談状況



○お子さんの年齢層

R5年度の相談件数は863件で就学前の幼児が約3割、小学生が約5割となっています。R4に引き続き小学生の相談件数が最も多い結果でした。各学年ごとにみると、年長児と小学1年生の利用が多くを占めており、就学という大きな環境変化の影響がみてとれます。また、中学生以上の相談件数は近年増加傾向です。

○相談内容

言語発達、知的障害、発達障害（ASD、ADHD、LD）、性格行動に関する相談が6割以上を占めています。性格行動の内容は、落ち着きがない、不安が高いなどです。そのほか、日常生活での対応や学習、対人関係等多岐にわたります。



子育てワンポイントアドバイス

スマホとの付き合い方

スマホばかりいじっている、スマホを取り上げると怒ったりかんしゃくを起こす…こんなことはありませんか。令和5年のこども家庭庁の調査*では小学生の42.9%、中学生78.7%、高校生97.4%がスマホでインターネットを利用しているという結果が出ており、年々増加傾向です。スマホの使い過ぎによる、視力や姿勢・情緒・学力などさまざまな影響が懸念されています。

発達障がいはスマホに依存しやすい！？

衝動性	自分の行動を抑えることが難しい
過集中	寝食を忘れるほど没頭しやすい
興味の偏り	特定の情報を引き出しやすいインターネット検索やSNSの趣味の集まりにのめりこみやすい
反復性	ルーティン化すると行動を修正しにくい

— ADHDの特性
— ASDの特性

発達障がいのある子どもは、その特性からよりスマホにのめりこみやすいと考えられます。

対応方法

- ①使用時間について親子で約束事を決める
- ②就寝時や勉強中はスマホを手元におかないようにする
- ③ペアレンタルコントロール機能※を利用し、使用時間の可視化、制限を行う
※保護者が子どものスマホ等の端末の機能を制限する機能
- ④スマホを使用しない活動を親子で楽しむ（運動・アウトドア・映画鑑賞）

参考：*令和5年度青少年のインターネット利用環境実態調査結果報告書より